

NEWS LETTER

No. 2



- 本市の児童生徒は年々減少傾向にあり、加えて学校施設の老朽化が進んでいることから、子供たちにとってより良い教育環境の見直しや整備が求められます。
- 本市では、未来を担う子どもたちが、心豊かでたくましく自立した人間として育つよう、市内すべての小中学校を対象とした具体的な学校の再編や建替について「各務原市学校適正規模・適正配置等検討委員会」を設立し、調査・審議を進めていきます。

第2回各務原市学校適正規模・適正配置等検討委員会を開催しました

令和7年8月28日（木）午前10時から第2回各務原市学校適正規模・適正配置等検討委員会を各務原市産業文化センターで開催しました。

将来推計結果（速報）やアンケート調査等について共有・議論しました

将来推計結果（速報）から市内全ての小中学校は将来的に減少傾向が続くことが想定されました。地域によって児童・生徒数の推移に大きな差が出ています。また、40年先までの推計を行った結果、これまで分かっていた小規模校5校（尾崎小、稲羽東小、緑苑小、八木山小、各務小）に加え、新たに「適正化すべき小規模校」に該当する可能性のある学校が3校（稲羽中、稲羽西小、桜丘中）示されました。

老朽化により建替を行う時期が差し迫っている学校もありますが、手戻りが発生しないよう、児童生徒数の今後の動向を踏まえた再編検討の結果に基づいて建替を行うことが必要です。

将来推計の結果	現在	10年後	20年後	30年後	40年後
適正化すべき小規模校 (児童生徒数120人以下)	稲羽東小 緑苑小	尾崎小 各務小	八木山小	稲羽中	稲羽西小 桜丘中
過大規模校 (31学級以上)	なし	なし	なし	なし	なし

※各学校別の児童生徒数の将来推計や、小規模校で開催した説明会で頂いたご意見など、詳細な資料をウェブサイトで公開しています。下記二次元バーコードから、第2回検討委員会のページへお進み下さい。

第2回委員会出された主な意見を紹介します

- ・児童8人の学級担任をしたことがあり、男子1人、女子7人と男女の偏りが大きいまま6年間が続く状況があった。こうした環境では、人間関係が固定化したり、「運動が得意なのはこの子で算数が得意なのはこの子」というような固定的な部分が出てきたりしてしまう。一方で大規模校から小規模校へ転校した結果、安心できたという声もあるので、小規模校の良さも踏まえながら検討していく必要がある。
- ・小規模校では、多くの先生から声をかけてもらえる安心感があるという声はあるが、その子どもは大人とだけ話せるというケースがある。そうした子らが子ども同士だと話せないことがあり、子どもの人間関係づくりという点で大きな課題だと考える。
- ・教職員の配置数は学級数によって決定されるため、小規模校では科目数の分だけ専門の教員が確保できない場合がある。また、どんな学校規模であっても必要となる業務があるため、小規模校では教員一人あたりの役割が増えてしまうという課題もある。
- ・学校再編は5年、10年と長期間かかると想定されるため、小学校や自治会だけでなく、地域全体で子どもたちをどのように育てるのが良いのか考えていくべきである。
- ・国は31学級を過大規模校としていて、これは1000人くらいの学校ということになるが、それくらいが上限か、もしくは大きすぎるくらいだと思う。
- ・学校再編を進めるためには、住民と保護者で共通認識をもつことが重要である。
- ・未就学児がいる家庭としては、自分の住んでいる小学校区で、自分の子どもと同じくらい年代の小さい子が何人くらいいるのかが分からないので、そういう情報も発信してほしい。
- ・小規模校では保護者の負担が大きいという傾向があり、PTAがなくなった学校もある。小規模校の場合は子どもだけでなく、保護者にとってもデメリットがあるということを考える必要がある。
- ・不登校だった子どもがクラス替えを大きなきっかけとして、登校するようになった経験がある。親としては、クラス替えができる環境は、ありがたいと感じている。

検討委員会の資料等をウェブサイトで公開していますのでご覧下さい。（右記二次元バーコードより）

【お問合せ先】各務原市役所 教育委員会事務局 教育施設整備推進課

TEL : 058-383-7302(直通) E-mail : kyseibi@city.kakamigahara.gifu.jp

